

いせさき美尋

景観サポーター情報誌



第3回景観まち歩き

*** ふるさとの明治・大正・昭和を歩く ***

市民の皆さんに“伊勢崎の”エッ“や”ハエー”を伝えるため、伊勢崎市景観サポーターが案内する「第3回景観まち歩きを」、10月1日（土）に行いました！

- 歩いた所：赤石楽舎→旧時報鐘楼→織姫ステンドグラス→町田佳聲の生家→相川考古館→伊勢崎神社→明治館→旧設楽医院レンガ塀→旧赤石学校門柱→赤石学舎
- 参加者：18名（大人16名、子ども2名）



赤石楽舎

旧設楽医院レンガ塀

伊勢崎神社

相川考古館

町田佳聲の生家

織姫ステンドグラス

旧時報鐘楼

【参加者の皆様から頂いた、ご意見】

- ① 本市に住んでいても、全く知らない所へ行くことができ、有意義でした。
- ② 伊勢崎に嫁いで今までは仕事できていましたが参加させて頂き良い所だと思いました。再度、伊勢崎市を知りたいです。
- ③ ちょっと疲れしました。途中で休憩時間を入れてもらいたい。

景観まちづくり先進都市視察

長野県 上田市柳町・東御市海野宿

景観サポーターのメンバーは9月3日(土)に景観まちづくり活動において先進の経験を有している都市である長野県上田市と東御市を訪問し、それぞれのまちづくりを視察しました。



「北国街道～柳町(上田市)・海野宿(東御市)」を訪ねて



9月3日(土)我々を乗せたバスは朝8時に伊勢崎市役所を出発、国道354号～上信越自動車道を快走し2時間足らずで、あっという間に今回の最初の訪問地である上田市に到着。

今、大河ドラマ「真田丸」で脚光を浴びている上田市の中で、今回は「柳町」という北国街道の宿場町だった所を主体として訪ねました。

訪問先では案内して頂いたガイドさんの熱気のこもった説明によって上田市「柳町」の歴史や文化、それに関わってきた街並みについて知る事ができました。また改めて、観光化されたまちづくりと、文化遺産の保存活動という両立の重要性を強く感じました。

次に訪問させて頂いたのは、同じく北国街道の東御市「海野宿」です。

海野宿も江戸時代は北国街道の交通・商業の中心として賑わった宿場町。そして明治以降は養蚕業としての歴史の移り変わりを美しい家並みとして色濃く見ることができます。

江戸時代の宿場の建物と、明治以降の養蚕造りの建物がよく調和しながら、伝統建築を形成しています。

特に、昔より「売らない・貸さない・壊さない」の三か条を守り、身の丈にあった、観光目的ではない文化遺産を活かした「まちづくり」という言葉が印象的でした。

視察の具体的な内容については割愛させてもらいますが、今回の視察で自分なりに強く感じた点は「まちづくり」には、その地域の目に「見える遺産」と「見えない遺産」をいかに有効に結び付けて活用するかがポイントだと思いました。

景観的だけではなく歴史・文化的内容も大事にした中味の濃いまちづくりが目標ではないかと改めて感じました。

今回は隣の長野県(信州)の柳町、海野宿の訪問でしたが、改めて歴史的にも文化的にも群馬(上州)との深いつながりを再認識する事ができました。(秋山)



矢出沢川の上で



海野宿



上田柳町から東御海野宿へ



◆上田市柳町



柳町南入口

上田市柳町を歩き地域遺産を見学しながら感じたことは、経済問題が地域を支配する大きな課題であるという事。

それは時代を問わず大切な要素である事が伝わりました。

価値の高い地域遺産や建造物を大切に末代に伝えようとする関係者の心構えを感じました。

丁寧なガイドの説明を聞きながらのまち巡りは、個人旅行では感じる事の出来ない深さをくみ取ることが出来ました。

◆東御市海野宿

海野宿ではコスモスが私たちを迎えてくれました。

同宿でさえも少子高齢化と空屋問題などの日本の現実がひたひたと押し寄せているようです。

案内して頂いたガイドの地元愛の深さと、ここに暮らす人達の心意気が十分に伝わってきました。(木曾の馬籠町並み保存の3原則「売らない・貸さない・壊さない」と同様に)

道を歩き、まばらな観光客とすれ違いながら、周辺建物や歴史の説明に傾聴し考えました。

「前に来た時よりもずっと内容の充実した訪問であったし、丁寧な説明によって私の知識を深める事が出来ました。」

人々との触れ合いが深まりうれしかったことと相まって、「今後も海野宿に多くの方が訪れますように」との思いで同宿を後にしました。(和佐田)



海野宿路地風景



上田市では、まず市内の歴史的建造物の残る柳町付近のまち歩きから始めて、その後市内のまち並みを見学しました。

柳町は、木造の宿場町の様子を伝える街道を保存しています。この歴史的街道を指定し、当街道入口には旧北国街道であることを表す木製看板が取り付けられています。

その脇には、町の案内地図と見所を示す看板があります。

その内容は、長くなく読むのに苦労しない文章と写真で構成されています。

この看板脇に柳の木を植え、それを覆い、いかにも柳町という雰囲気を醸し出しており、自然に看板を見入ってしまいました。



おしゃれな案内板

街道を歩いて行くと各所に、その建物の特徴を表す案内板があり、これらを読みながら建物の外観を見て行くと、時間の過ぎるのを忘れてしまいます。

まちの雰囲気を堪能しながら店に入り、商品を見ていると知らぬ間に時間が過ぎました。さほど長い通りではないのですが、見学して満足できました。

その後、上田市内のまち歩きを行い、随所にその場所の特徴と案内を示すおしゃれな道標のような小さな案内があり、常に現在の自分が市内のどの位置にいて、どの方向に行くと何があるかが解るようにしてありました。

また、わざわざ観光案内所を探し、地図を手に入れ、照し合せたり、まちの人にここは何処か聞かずとも歩けるようになっていきます。

その上、町中には小さなポケットパークがあり、ベンチ等で休む事が出来ます。そこには町内のことを良く知っている人がいて、その場の案内をしてくれるのも、住民とのコミュニケーションがとれて良かった。

このように、観光客や観光以外で町まちに来た人でも、地図を持たずに歩け、目的地に到達できるようになっているのは嬉しいことだと思いました。

私は、伊勢崎に住むようになって35年過ぎましたが、町内にどのような施設があり、どこをどう行けば良いかを説明できません。

いかに町の事を知らないか痛感しました。その為、市内を熟知し、十分に利用できていないのが現状です。急激な町の発展に伴い、新しく外部から来て住むようになった人の為にも、町の事を熟知してもらう必要があるのではないかと共に、自身もっと市民としての自覚を持ち、周りの人に町の事を知ってもらうよう知識を深める必要があると考えさせられました。(家泉)



道標



廃線跡も景観づくり



上田市柳町のまち歩きの際最後に上田城址に辿り着きました。

上田城址は視察の対象になっていなかったのですが、バスの駐車場へ向かう途中に興味深いものを見つけました。

上田城二の丸の堀跡が遊歩道になっていましたが、ただの堀跡とは若干雰囲気が違うので、注意深く観察したところ堀跡には鉄道が敷設してあったようです。

「鉄ちゃん」を自負している私は、不覚にもこの事実を知りませんでした。

この鉄道の詳細はここで述べるのに相応しくありませんので省略しますが、堀跡から鉄道の廃線跡に変



南櫓



かつての線路跡



公園下駅ホーム跡

化していった景観の移り変わりをしっかりと保存し、現在では遊歩道として再利用していることは素晴らしいことだと思いました。

「真田丸」一色の上田城址ですが、鉄道が走っていた景観を記憶に残す配慮に感心しました。

機会があったら再訪してじっくりと廃線跡を見学してみたいと思っています。

(加治屋)





柳町の酒蔵

私たち景観サポーターは、長野県上田市の柳町を視察に行ってきました。

その日は朝から天気がよく、足取りも軽く絶好の視察日和になりました。

上田市中心三丁目の大きな柳の木のあるところを曲がると、そこには水琴窟があり北国街道入口となります。

道は石畳が敷かれ、両側には瓦葺きの古い家が建ち並んでいました。

珈琲ショップ、酒蔵（ちょっと試飲をしたかったが時間の都合で断念）、旨

そうなそば屋もあり駐車場に何台かの他県ナンバーを見かけました。今年のNHK大河ドラマも多少後押ししているかも知れません。

地元のボランティアガイドの方の説明を聞きながら歩き、その説明の一つひとつで皆その方向を見る。説明無しでは味わえなかったまち歩きでした。

その説明を聞いているうちに、ここを古人（いにしえびと）が歩いたことを思い。真田武士や徳川武士が生死をかけ走り回って戦った事を思い浮かべる。

そして、今ここを私たちは歩いている。それはまさしく上田の人たちのお陰です。きっと何年もかけて街並みを整備した人がいたからと思います。

街は道により変わる場合があります、きつとこの柳町周辺も近代化、道路拡幅があり人通りが変わってさびれていった事と思います。また、柳町と同じ様になってしまったのが福島県の大内宿の様な気がします。

街道が他の場所に移り、人の流れが変わり現在の道になり両側にかやぶき屋根の家並みが続く、そこも整備するのに尽力した人たちがいたに違いありません。

もちろん海野宿も同じだと思う。その人たちのお陰で今こうして私たちがここ見学し歩いている。

そして、これからは先人たちの残してくれた過去の物を現在へ、そして未来へ有形、無形のものを大切に修復、保存することがますます重要と思えた先進地視察になりました。（菅谷）



ボランティアガイド



長野県上田市柳町視察



上田市観光ボランティアの神林様のガイドによりスタート！

北国街道（ほっこくかいどう）の要所として栄えた柳町は、平成4年「柳町まちづくり協議会」を設立。景観協定を結び歴史的景観の保全に努めた地域です。

江戸時代の街並みが保全され往時の趣を今に伝える潤いを感じさせる空間でした。

通りに面する建物に目を向けると和風を印象付ける格子窓が印象的です。「親付き切り子格子」と呼ばれるもので長短が規則正しく並べられていました。



いよいよ始まります！



柳町から太郎山を望む



矢出沢川



長野県東御市海野宿視察



海野宿は、小諸市から西へおよそ11kmに位置しています。重伝建（重要伝統的建造物群保全地区）に選定された江戸から明治時代の風情を今に伝える北国街道の宿駅です。時代時々の交通・商業の中心として活気ある時を過ごしてきました。気抜き窓、往時の隆盛を伝える卯建や海野格子などが訪れる旅人の気持ちを穏やかにしてくれます。

私達は、東御市地域観光ガイドの関様に詳しく説明をしていただきました。

江戸、明治、大正、昭和そして平成へと幾つもの難題を潜り抜け今日があることを知りました。（佐藤）



土壁造りの農家



静かな佇まいの北国街道



滞在型交流施設「うんのわ」東御市HPより



桐生市買場紗綾市と 重伝建の視察

桐生は古くから織物の町として発展し、織物産業の繁栄を今に伝えるまち並みがいたるところに残っています。土蔵造りの店舗や白磁タイルを張った事務所、煉瓦造りの倉庫など歴史的資産の宝庫でした。

これらの歴史的資産を活用し、かつ後世に残していく活動の一環として平成24年に桐生新町地区が「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。

11月5日（土）に景観サポーターのメンバーはこの地区を視察しました。

桐生新町「重伝建エリア」を歩く

「絹ロマン歴史織りなす桐生新町」は、天正19年（1951）に徳川家康の命を受け、代官大久保長安の手代大野八右衛門により新たに町立てされ、在郷町として発展したまちで、町立て当初からの敷地形態と共に、江戸後期から昭和初期に建てられた主屋、土蔵、のこぎり屋根の工場など、絹織物業に係わる様々な建造物があり、「製織町」として特色ある歴史的な環境が残り今日に伝えられている事を、まち歩きの中で強く感じました。

NPO法人「本一・本二まちづくりの会」森壽作理事長からは「重要伝統的建造物群保存地区」に認定されるまでに20数年掛かった事のエピソードや苦労話を伺い、大変勉強になりました。

ちなみに、文化財保護法で云う「伝統的建造物群保存地区」とは、城下町・宿場町・門前町・寺内町・港町・農村・漁村などの伝統的建造物群及びこれと一体をなして歴史的風致を形成している環境を保存するために市町村が定める地区を指し、文化財としての建造物を「点」ではなく「面」で保存・保全する地区として指定するものです。

「建造物」は勿論、門・土塀・石垣・水路・墓・石塔・石仏・燈籠などの「工作物」、庭園・生垣・樹木・水路などの「環境物件」を特定し保存措置を図ることとされています。

市町村は都市計画法に基づく都市計画又は条例により伝統的建造物群保存地区を定め、文科省大臣は市町村の申し出に基づき、その価値が特に高いものを「重要伝統的建造物群保存地区」として選定することとされています。

この桐生新町の「重要伝統的建造物群保存地区」は、平成27年4月に文化庁により「日本遺産」にも認定され、何度でも訪問してまち歩きしたくなる、歴史を感じられるまちでした。（七條）



のこぎり屋根

機音を聞きつつ故郷の未来を思う

今回、西の京都と対比される桐生を、県内他市として初めて視察しました。先ず、NPO法人本町一、二まちづくりの会理事長の森壽作氏から、重伝建とその指定に関する活動を学びました。同氏は、ユーモアを交えて、これまでの活動を語ってくれました。

市街地道路の拡幅や建物の建て替えもまちの活性化にはつながらず、地域に残された歴史資産等を活用したまち起こしを試みても、明るい展望は描けませんでした。東日本大震災で、多数の重要建築物が被害を受けた時、先進都市との交流を通して、重伝建指定への手がかりが掴めたとの事で、行政、市民、他市等様々なネットワークを通じた連携、時代や価値観の変化等が今日の桐生活活性化活動を支えているようです。

活動経過を聞いてから、観光ガイドの案内で、重伝建地区やのこぎり屋根の工場遺産等を見学しました。のこぎり屋根は、北側に設けた高窓から自然光を取り入れて、織物の色調や品質を管理する上で重要な役割を持っていたそうです。現在 200 余ほど残っている、のこぎり屋根は織物で栄えた桐生の象徴です。

案内された織物工場では、現在でも織機が稼働していました。道路まで、響いていた機音は、工場に入る時はぴたりと止まっていました。貫禄のある織機と経営者が現役で働いている様子には感動を覚えました。織物サンプル配布や製品販売も同時に行い、ガイドと工場の連携も見事でした。機音から未来の産業が生まれて欲しいと感じた視察でした。(重田)



ガイドの説明を聞くサポーター



今も稼働する織機

ノコギリ屋根の工場建築

平成29年1月26日に開催予定の「景観まちづくり講演会」に講師をお願いしている森壽作氏と打合せをすることを目的に桐生市を訪れました。森氏はNPO法人「本一・本二まちづくりの会」の理事長を務めており、桐生新町重要伝統的建築物群保存地区指定で中心的役割を果たした方です。

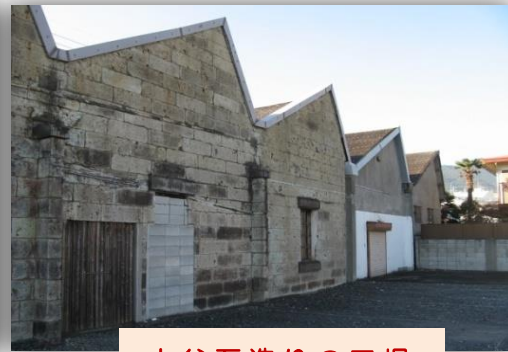
打合せが終わった後、「買場紗綾市」で賑わう古い町並みのまち歩きに出掛けました。

桐生新町は平成24年に重要伝統的建造物群保存地区に制定され、特に絹織物業を中心とした産業を支えた土蔵・ノコギリ屋根の工場が保存され、また今でも同じ目的で使用されている実態を目の当たりにして、この活動に携わる桐生市民の心意気に感動を覚えました。

特に、現在でも約200棟余りが残存すると云うノコギリ屋根の工場は圧巻でした。



瓦葺・木造の工場



大谷石造りの工場

工場の採光窓は、織物の色調を確認するのに最適な採光が出来るよう、北向きに開いているとのガイドさんの説明に、当時の品質管理が秀でていたことを知るのに十分な説明でした。これ

らの拘りが、「西の西陣、東の桐生」と云われる所以であることを痛感したまち歩きでした。

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区の成り立ちと現状を知り、活動に取り組む皆様のご努力に敬意を示すと共に、この視察から得た知見を伊勢崎市の景観まちづくりに活かしていきたいと思いました。(加治屋)

※いせさき美尋第8号の一部訂正について

5ページ、2章「まちづくりの印象」の文章表現中、「ゴツゴツゴツ」を「ゴツンゴツン」に、「凹凸があり少し歩きにくく感じ、高齢者などが転倒しないかと少し心配しました。」を「凹凸があり歩きにくく、高齢者などが転倒しないか心配です。」に、お詫びして訂正いたします。(編集部)

*** 景観サポーター情報紙「いせさき美尋」とは? ***

美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。

景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね(美尋)、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。

■景観サポーター情報紙「いせさき美尋」第9号 平成29年1月26日発行

■発行者/いせさき景観サポーター実行委員会編集部

(連絡先/090-1252-2509(佐藤好彦))